

## 提案における留意事項

提案にあたっては、「新石川県立図書館基本構想」（以下「基本構想」）に掲げた方針を十分に踏まえること。特に、基本構想においては、「新県立図書館の基本コンセプトに基づく新たな図書館像」の1から3を達成するための機能性と経済性を有するとともに、「知と文化の象徴としての図書館」に相応しい「時代を超えて評価される内外観」を持つ図書館となることを期待しており、建築そのものの魅力で多くの人を惹きつけるものとなるよう留意されたい。

なお、設計においては、多くの関係者と積極的にコミュニケーションを行い、必要な機能や求められる性能を的確に把握し、設計に反映させること。

以下に本計画における留意事項を示すが、各エリア及びスペースについて提示する面積は一定の目安であり、それぞれを融合することや、開放性や閉鎖性について設計者の提案を制限するものではない。

### 1. 全体に関する留意点

- ・音や光の階層性に留意し、文化的な活動・交流や読書、調査など様々な利用形態に対応できる空間構成とする。  
(必ずしも壁や間仕切り等で区画する必要はない)
- ・必要があれば地下の利用は可とする。

### 2. 「閲覧エリア」における留意点

- ・子どもや学生から高齢者まであらゆる年代が、時には一人で、時には家族や友人と一緒に訪れる等、様々な来館者の利用形態に応じた閲覧のための多様な環境を設ける。
- ・児童コーナー開架冊数は3～4万冊程度を想定しており、親子が楽しめる機能を備え、子どもやその保護者も快適に過ごせるコーナーとなるよう工夫する。
- ・石川コレクション(仮称)コーナーは、新図書館を特徴づけるものであり、伝統文化関連のコーナー、里山里海の生物文化多様性関連のコーナーについては、それぞれ開架冊数は2～3万冊程度を想定しており、関連する図書・資料に加え、各種メディアや実物等の展示もできるなどの工夫を行う。

### 3. 「知と情報のひろば」における留意点

- ・屋内広場は屋外広場との連続性を考慮する。
- ・多目的ホール、交流ルーム（研修室）について、それぞれ他エリアとの融合を自由に構想してもよい。
- ・目安として、屋内広場・飲食の場（カフェ等）で800㎡以上、多目的ホール・交流ルーム（研修室）・映像資料の上映会も可能なスペースで600㎡程度を想定している。

#### 4. 「書庫エリア」における留意点

- ・ 書庫の構成（書庫タイプ）については、全体の計画に合わせて設計者が提案してよい。
- ・ 目安として、一般書庫で 4,000 m<sup>2</sup>以内、貴重書・資料保管庫・公文書等の一時保管庫で 1,000 m<sup>2</sup>以内を想定している。

#### 5. 「事務管理エリア」における留意点

- ・ 必要なスペースは、一般的な事務室に加え、各種の作業スペースや職員以外のスタッフの待機室等を想定し、目安として、面積は 1,300 m<sup>2</sup>程度を想定している（職員数は未定）。

#### 6. 「外部・アクセス」に関する留意点

- ・ 駐車場（約 400 台）は、地上部分の平面自走式とし、一部は広場としての利用も可能となるよう、舗装等の工夫を検討する。
- ・ 屋外の緑地や広場、駐車場、その他外構を含めたランドスケープについても計画を行うものとする。